

---

# ハートキャッチプリキュア！短編集～新たな出会い

ユーリ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ハートキャッチプリキュア！短編集〜新たな出会い

### 【Nコード】

N8037V

### 【作者名】

ユーリ

### 【あらすじ】

『ハートキャッチプリキュア』のその後の話。新たな仲間との出会いと、新たな闇がブロッサム達を待つ！！

## 前編：転生！キュアシャドームーン！！

砂漠王デューンとの戦いから数ヶ月後・・・

月影ゆりは今日も、心の大樹に来ていた。

月影ゆり

「コロン・・・」

コロン

『ムーンライト、また来てくれて嬉しいよ。』

ゆり

「ええ・・・ここくらいしか、私の悲しみを癒す場所はないから・・・」

コロン

『お父さんと妹を亡くした事だね？でも、そう悲観する事もないかもしれないよ。』

ゆり

「え？」

コロン

『心の大樹は、人の想いを摘み取って成長するんだ。ムーンライトの想いが届けば、もしかしたら奇跡が起きるかもしれない・・・』

ゆり

「ありがとう、コロン・・・」

ゆりは帰って行った。

薫子が管理する植物園

花咲つぼみは妹であるふたばの面倒を見ながら、植物園の手伝いをしていた。

将来は植物学者になるつもりでいるようだ。

ジャアアアアア・・・

花咲つぼみ

「フウ・・・」

「つぼみ！」

つぼみ

「！」

つぼみが振り返ると、来海えりか・明堂院いつき・月影ゆりの3人が立っていた。

つぼみ

「みんな！」

ゆり

「つぼみもだいぶ世話できるようになったじゃない。もうそろそろ管理を任されても良いんじゃない?」

つぼみ

「まだまだですよ。こないだからおばあちゃんに稽古つけてもらってるんですが、全然勝てなくて・・・」

明堂院いつき

「薫子さんは本当に強いからね。ボク達もたまに稽古つけてもらってるけど、全然だよ。」

来海えりか

「でも植物の知識じゃつぼみは負けてないかね!」

つぼみ

「みんな・・・」

カランカラン・・・

つぼみ

「あ、お客さんです!!」

つぼみは玄関に迎えに行く。

そして次の瞬間、つぼみの驚く声が聞こえてきた。

つぼみ

「ええ〜!!」

えりか・いつき・ゆり  
「？」

ゆり  
「どうしたの、つぼみ？」

つぼみ

「実は・・・」

「ゆり！」

ゆり  
「え・・・」

ゆりは目を見開いた。

そこにいたのは誰だろう、月影博士だったのだから。

ゆり  
「お、お父さん・・・」

月影博士  
「ゆり・・・」

ゆり  
「お父さん！！！」

ゆりは月影博士に抱きつき、泣き出した。

月影博士

「心配をかけたな、ゆり・・・」

いつき

「親子の感動の再会だね。」

月影博士

「ホラ、オマエも後ろから出て来なさい。」

「はい・・・」

月影博士の後ろから出て来たのは、ダークプリキュアだった。

つぼみ

「ダークプリキュア！復活したんですか？」

月影博士

「ああ、もう彼女は普通の人間だ・・・」

美羽

「み、美羽です。よろしく・・・」

えりか

「スゴい大人しい子になっちゃったんだね。」

ゆり

「よろしく、美羽！」

その後美羽は明堂院学園に通う事となり、つぼみのクラスメイトに

なった。

つぼみ

「美羽、学校はどうですか？」

美羽

「はい、とても楽しいです・・・」

えりか

「そりゃあ、良かった。」

いつき

「みんな、大変だよ!!」

いつきが教室に入ってきた。

つぼみ

「どうしたんですか？」

いつき

「デザトリアンが現れたんだ!!」

えりか

「ええ!! デューンは倒したハズなのに!!」

美羽

「きつと、生き残りがいたんだわ・・・行きましょう、皆さん!!」



つぼみ達は学校を飛び出し、現場に向かった。

つぼみ

「ムーンライト!!」

ムーンライト

「みんな、来たのね。」

つぼみ達3人は変身した。

ブロッサム

「大地に咲く一輪の花!キュアブロッサム!!」

マリン

「海風に揺れる一輪の花!キュアマリン!!」

サンシャイン

「日の光浴びる一輪の花!キュアサンシャイン!!」

ムーンライト

「月光に冴える一輪の花!キュアムーンライト!!」

ブロッサム・マリン・サンシャイン・ムーンライト

「ハートキャッチプリキュア!!」

「よく来たな、プリキュア!!」

デザトリアンの横に、蛾の姿をした男が立っていた。

ガモースラ

「オレ様の名はガモースラ！！太古の砂漠の使徒の1人よ！！行け、蜘蛛型デザトリアン！！」

『ギシイ！！』

デザトリアンはブロッサム達に向かって来た。

ブロッサム

「プリキュア・ピンクフォルテウェイブ！！」

マリン

「プリキュア・ブルーフォルテウェイブ！！」

サンシャイン

「プリキュア・ゴールドフォルテバースト！！」

ムーンライト

「プリキュア・シルバーフォルテウェイブ！！」

ブロッサム達は4人一緒に必殺技を放った。

だが、デザトリアンは蜘蛛の巣を飛ばし、攻撃を防いだ。

シュッ！！

バシン！！

ブロッサム

「効かない!?!」

ガモースラ

「今度はこちらの番だ・・・デザトリアン!?!」

デザトリアンは口から糸を吐き出してきた。

シューツ!!

ブロッサム

「わわわっ!!」

ブロッサム達は何とかかわそうとするが、追いつかれて巻かれてしまふ。

シュルルル!!

ブロッサム・マリン・サンシャイン・ムーンライト

「キャッ!!」

そして、4人一緒にグルグル巻きにされてしまった。

グルグルグルグル・・・

ブロッサム・マリン・サンシャイン・ムーンライト

「キャアアアア!!」

デザトリアンはブロッサム達を前足で吊し上げる。

ブラン・・・

ガモースラ

「デザトリアンよ、プリキュア達を食べてしまえ！」

美羽

「止めて!!！」

ガモースラ

「ん？何だオマエは。」

美羽

「みんなを離して!!！」

ガモースラ

「フン、生意気な娘め。デザトリアン、あの娘も捕まえる!!！」

デザトリアンは糸を美羽目掛けて飛ばしてきた。

シュッ!!

美羽

「全ての闇を晴らすまで、私は果てません!!！」

その時、美羽の手にココロパフォームが出現した。

美羽

「プリキュア・オープンマイハート!!！」

美羽は黒い光に包まれていく。

そして次の瞬間、美羽は黒い衣装の姿に変身した。

シャドームーン

「闇夜を照らす、一輪の花！キュアシャドームーン！！」

ブロッサム

「キュアシャドームーン・・・」

ムーンライト

「あれが、美羽のプリキュア姿・・・」

シャドームーン

「花よ、輝け！！シャドータクト！プリキュア・シャドーファイヤ  
ー！！！」

シャドームーンはタクトから黒い炎を撃ち出し、ブロッサム達を吊  
している糸を焼き斬った。

ボンッ！！

『ギシャアアア！！』

ブロッサム達は地面に着地する。

ガモースラ

「おのれえ！！デザトリアン！！」

『ギシャアアア！！』

デザトリアンはシャドームーンに向かって来た。

ジャキッ!!

シャドームーン

「花よ、光り輝け!!プリキュア・シャドーファイヤー・フォルテ  
ツシモ!!」

シャドームーンはタクトから攻撃を放った。

ドンッ!!

シャドームーン

「ハアアアア!!」

『ポワワワワ……』

デザトリアンは浄化された。

ガモースラ

「クソッ……」

ガモースラは撤退して行った。

新たな仲間、キュアシャドームーンを迎えた Blossum 達。

新たな敵、ガモースラとの戦いの行方は!?

今回はももかの心に変化が!?

中編：燃える！情熱のスカーレット！！

シャドームーンを仲間にした後も、ブロッサム達はガモースラの操るデザトリアンとの戦いに明け暮れていた。

ブロッサム

「プリキュア・ピンクフォルテウェーブ！！」

ドオン！！

マリン

「プリキュア・ブルーフォルテウェーブ！！」

パン！！

サンシャイン

「プリキュア・ゴールドフォルテバースト！！」

ドゴォ！！

ムーンライト

「プリキュア・シルバーフォルテウェーブ!!」

ドォン!!

シャドームーン

「プリキュア・シャドーフォルテウェーブ!!」

ドン!!

ガモースラ

「クソッ、プリキュアめ……いつもいつもオレ様の邪魔をしやが  
つて。」

「ガモースラ。」

ザッ。

ガモースラ

「ん……? おお、アヌビィナスではないか!」

そこにいたのはガモースラの幼なじみであるアヌビィナスだった。

彼女も古代の砂漠の使徒なのだ。



アヌビーナス

「ガモースラ、あなたの戦いをしばらく見ていたわ。」

ガモースラ

「情けないところを見られてしまったな・・・」

アヌビーナス

「そんな事もないわよ。おかげで1つの事に気づけたんだから。」

ガモースラ

「1つの事？」

アヌビーナス

「ハートキャッチプリキュアの作戦をたてたりするのは恐らくキュアムーンライトの役目でしょう。だけど実質的なリーダーは・・・」

ガモースラ

「キュアブロッサム・・・という事か。」

アヌビーナス

「その通り。彼女さえ潰せば、後はどうとでもなるでしょう。」

ガモースラ

「なるほどな。だがどうやってキュアブロッサムを潰すのだ？」

アヌビーナス

「心配しないで。アタシに良い考えがあるの。」

ガモースラ

「ほほう・・・」

2人の砂漠の使徒の魔の手が、ブロッサムに迫ろうとしていた。

そして翌日

『ギャオオオオオ!!』

マリン

「今までのより大きい!」

サンシャイン

「1人1人の必殺技じゃ倒せそうにないわね。」

ムーンライト

「ブロッサム!」

ブロッサム

「はい、あれを使いましょう! シャドームーン、見てて下さいね!」

シャドームーン

「はい!!」

ブロッサム・マリン・サンシャイン・ムーンライト

「鏡よ鏡、プリキュアに力を!! ハートキャッチプリキュア・スーパーシルエット!!」

ブロッサム・マリン・サンシャイン・ムーンライト  
「花よ、咲き誇れ！！プリキュア・ハートキャッチオーケストラ！  
！」

巨大な女神が、デザトリアンを叩き潰し浄化する。

ズンー！

パアア・・・

ガモースラ

「フツ、これで良い・・・」

ガモースラは撤退した。

マリン

「フーツ、今回はちょっと大きい相手だったわね。」

ブロッサム

「そう、ですね・・・」

フラッ・・・

ドサッ！

ブロッサムは倒れ込んだ。

サンシャイン

「ブ、ブロッサム！？」

ムーンライト

「ブロッサム、しっかりして!!」

植物園

つぼみ

「うゝん・・・」

えりか

「あ、目が覚めた!」

つぼみ

「みんな・・・ここは?」

ゆり

「薫子さんの植物園よ。つぼみ、あの後倒れたの。」

いつき

「ダメじゃないかつぼみ、無理したら。」

美羽

「たまには私達を頼って下さい、つぼみさん。」

ゆり

「お粥の材料買って来るわね。ももか、つぼみの看病頼める?」

ももか

「任せて。」

いつき

「じゃ、行こうか。」

ゆり達はお粥の材料を買いに出掛けた。

ももかはつぼみを看病しながら、メモ帳を開いていた。

つぼみ

「ももかさん、何を見てるんですか？」

ももか

「スケジュールのチェックよ。えっと、来週は休みね……」

つぼみ

「スゴいですね、ももかさん。」

ももか

「まあね……」

ガチャ！

ガモースラ

「見つけた。」

アヌビーナス

「あのメガネの娘がプリキュアかしら？」

ももか

「な、何ですかあなた達は！！」

ガモースラ

「どけ、姉ちゃん。オレ様達はその娘に用があるのさ。」

ももか

「何者かは知らないけど、つぼみちゃんには指1本触れさせな・・・」

「

ガモースラ

「邪魔だ！！」

ガモースラはももかを殴り飛ばす。

ドカツ！！

ももか

「キャアッ！！」

つぼみ

「ももかさん！！」

アヌビナス

「心の花よ、出て来なさい！！」

つぼみ

「キャアアアア！！」

アヌビーナスはつばみから心の花を奪った。

アヌビーナス

「デザトリアンのお出ましよ!!」

アヌビーナスはつばみの心の花をウツボカズラに憑依させ、デザトリアンを出現させた。

ドオン!!

ももか

「つばみちゃん・・・」

その頃、えりか達は材料を買い終えて帰ろうとしていた。

えりか

「色々買ったね。」

いつき

「つばみには早く元気になってもらわないと。」

その時、ももかが走って来た。

ももか

「ゆり、大変なの!!」

ゆり

「どうしたのももか？そんなに息を切らせて・・・」

ももか

「つばみちゃんが・・・つばみちゃんが・・・」

ももかはつばみが閉じ込められた水晶玉を見せた。

えりか

「つばみ！！」

ゆり

「向こうから悲鳴が聞こえる・・・行きましょう！！」

ゆり達がその場所に着くと、ウツボカズラ型のデザトリアンと2人の男女が待っていた。

アヌビーナス

「あら、意外と早かったわね。」

いつき

「新しい幹部！？」

えりか達はプリキュアに変身した。



ムーンライト

「シャドームーン、ももかをお願い!!」

シャドームーン

「わかったわ!」

マリン

「マリンシャワー!!」

マリンは水流で攻撃するが、デザトリアンには通じていない。

デザトリアンはツルを伸ばし、マリンを絡め取る。

シュルツ!

マリン

「キャッ!!」

デザトリアンはマリンを飲み込んだ。

バクン!

サンシャイン

「マリン!!サンシャインフラッシュ!!」

サンシャインは光でデザトリアンを攻撃する。

ブワッ!!

『・・・』

シュルツ！

サンシャイン  
「わっ！！」

グイツ！

サンシャイン  
「キャ〜ッ！！」

バクン！！

ムーンライト  
「サンシャイン〜！！」

ガモースラ  
「残り、2人。」

ムーンライト  
「プリキュア・シルバーインパクト！！」

ムーンライトは爆発でデザトリアンを仰け反らせた。

ムーンライト  
「今だわ！シルバームーンアロー！！」

ムーンライトは銀色の弓矢でデザトリアンを攻撃する。

バシュッ！！

ドゴォー！！

しかし、効いていない。

ムーンライト

「なっ・・・」

シュルツ！

バシッ！

ムーンライト

「うつー！！」

グイッ！

ムーンライト

「イヤアッー！！」

バクン！

ムーンライトもデザトリアンに飲み込まれた。

シャドームーン

「ムーンライトー！！ももかさん、下がってー！！シャドーファイヤー・フォルテッシモー！！」

ドゴォー！！

シャドームーンはタクトで攻撃するが、効いていないようだ。

シャドームーン

「クツ・・・」

シュルツ！

シャドームーンはツルに足を取られた。

シャドームーン

「キャッ！！」

ズズズ・・・

ももか

「どうして？どうしてあなた達は罪もない人達をキズツケるの！？」

ガモースラ

「それがオレ様達の使命だからだ。」

アヌビーナス

「アタシ達は世界を砂漠にできれば、どんな事でもするのよ。」

ももか

「許さない・・・あなたはきっと、心が冷たい悲しい人達なのね・・・冷たい心は、アタシの情熱で溶かしてあげる！！」

その時ももかの手が光り出し、ココロパフュームが出現した。

ももか

「プリキュア・オープンマイハート!!」

ももかは赤い光に包まれ、赤色の姿に変身した。

スカーレット

「情熱燃やす一輪の花!キュアスカーレット!!」

シャドームーン

「キュア・・・スカーレット・・・」

スカーレット

「クリムゾンフレア!!」

スカーレットは強力な炎でデザトリアンを攻撃する。

デザトリアンはたまらず、マリリン達を吐き出した。

ゴボツ!

スカーレット

「花よ、焼き払え!ファイヤータクト!!プリキュア・ブロンズフォルテウェーブ!!」

スカーレットは強力な炎を放ち、デザトリアンを攻撃した。

スカーレット

「ハアアアア!!」

『ポワワワワワ・・・』

デザトリアンは浄化され、ガモースラ達は撤退した。

ももかを仲間に加え、さらに強くなったたつばみ達。

次回はいいよ、ふたばが登場します！！

## 後編：奇跡の戦士、キュアイーリス！！

ガモースラとアヌビーナスは、隠れ家にて会議をしていた。

ガモースラ

「クソッ、まさかまた新しいプリキュアが生まれるとはな……」

アヌビーナス

「キュアスカーレット……少々厄介なのが出たわね。」

ガモースラ

「どうする、アヌビーナス？」

アヌビーナス

「そうね……彼女達の数を減らせれば良いのだけど……あ！  
良い作戦を思いついたわ……」

植物園

ゆり

「驚いたわ、まさかもかもプリキュアになるなんて。」

ももか

「今までは応援しかできなかったけど、これからはアタシも一緒に戦うわ。」

つぼみ

「心強いです!」

いつき

「じゃ、学校に行こうか。」

つぼみ達は体育の授業を受けていた。

今はバスケットボールの時間だ。

えりか

「つぼみ!」

ブンッ!

つぼみ

「はいっ!」

パシッ!

つぼみはえりかからボールを受け取ると、走って行く。

タタタ・・・

つぼみの前に、相手チームの1人が立ち塞がった。



つぼみ

「美羽!!」

つぼみは美羽にボールを投げた。

ブンッ!

パシッ!

美羽

「任せて!!」

美羽はつぼみからボールを受け取ると、相手チームをかわしながら近づいた。

美羽

「左手は、添えるだけ!!」

美羽はボールを投げる。

ボールは見事、バスケットに収まった。

『試合終了!! 激戦を制したのは、花咲チームです!!』

えりか

「やったね、つぼみ!」

つぼみ

「美羽のおかげです!」

美羽

「汗を流すって、気持ち良いですね!」

つぼみ達5人は、生徒会室に集まっていた。

ももかは先に帰宅している。

つぼみ

「ガモースラとアヌビーナス・・・砂漠の使徒にまだあんなのがいたなんて・・・」

いつき

「ゆりさんは彼らの事を知ってるんですか?」

ゆり

「少しだけならね。彼らは江戸時代に生まれたとされていて、明治頃から日本各地で暴れ回っていたそうよ。」

えりか

「明治時代にもういたんだ・・・」

ゆり

「当時は特殊な戦闘装束を身につけた巫女や僧侶が戦っていたらしいんだけど、ほとんど生身の彼らでは互角に戦うのは至難の技だった。そして昭和になって、一層砂漠の使徒の攻撃は激しさを増し、

戦士達は次々に倒され日本は彼らに滅ぼされかけた・・・」

美羽

「それでそのままやられたんですか・・・？」

ゆり

「その時よ、1人の女性が心の大樹に認められ、今までとは全く違った戦士になったのは・・・」

いつき

「まさかその人・・・」

ゆり

「そう、それが五代薫子・・・つぼみのおばあちゃんよ。」

つぼみ

「おばあちゃんが・・・」

ゆり

「薫子さんはキュアフラワーとなり、デューン率いる砂漠の使徒と戦ったわ。そして、ついに四天王と言われる幹部達との戦いになった・・・」

フラワー

「プリキュア・フラワーキャンドル!!」

ゴォッ!!

フラワー

「プリキュア・フラワーカーニバル!!」

ブワッ!!

ガモースラ

「クソッ、コイツ強い!!」

アヌビナス

「デューン様、大丈夫ですか!？」

デューン

「な、何とか・・・」

フラワー

「デューン、あなたを封印します。プリキュア・フローラルパワー・  
フラワーシール!!」

フラワーは巨大な花を放った。

ゴォッ!!

ガモースラ

「デューン様!!」

アヌビナス

「危ない!!」

ガモースラとアヌビナスはデューンを庇い、封印された。

デューン

「ガモースラ！アヌビーナス！！許さんぞ、キュアフラワー・・・」

ゆり

「その後薰子さんはデューンと戦い、ココロパフュームの破壊と引き換えにデューンを封印したわ。」

美羽

「じゃあ、ガモースラとアヌビーナスの封印が解けたのは・・・」

いつき

「薰子さんの力が弱まったから？」

ゆり

「そうよ。そして彼らはデューンの仇を討とうとしている・・・」

えりか

「気をつけなきゃね。」

その時、紙飛行機が教室に入って来た。

ヒュー・・・

ポトツ。

つぼみ

「紙飛行機？」

えりか

「何を書いてあるのかな？」

つぼみ達は紙飛行機を開き、中身を見て絶句した。

『プリキュアへ

オマエ達の大切な者達を預かった

返してほしくば、町外れにある廃倉庫に來い

ガモースラ アヌビーナス』

つぼみ

「大切な人って・・・おばあちゃん!？」

えりか

「もも姉!！」

いつき

「お兄様!？」

ゆり

「お父さん・・・」

美羽

「私、植物園に行つて來ます!！」

タタタ・・・

つぼみ

「みんな、行きましよう!！」

つぼみ達は廃倉庫へと向かった。

植物園

ガチャ！

美羽

「薰子さん！！」

美羽は植物園に入る。

そこには、薰子がいた。

ももか、さつき、月影博士もいる。

美羽

「薰子さん！？それに皆さんも・・・」

薰子

「どうしたの、美羽ちゃん？」

美羽

「皆さんどうして・・・ガモースラとアヌビナスに誘拐されたんじゃないんですか！？」

薰子

「私達が誘拐？何を言ってるんですか・・・今日は私達、ずっとここにいましたよ。」

ももか

「どうしたの、美羽ちゃん？」

美羽

「ヤバイです・・・つぼみさん達が危ない！！ももかさん、一緒に来て下さい！！」

ももか

「わかったわ！！」

ふたば

「お姉ちゃん達、ピンチなの？」

美羽

「ふたばちゃん。」

ふたば

「私も行く！！」

美羽

「わかったわ、一緒に行きましょう！！」

美羽達は廃倉庫へと向かった。

つぼみ・えりか・いつき・ゆり



「うゝん、うゝん!!」

つぼみ達は廃倉庫の中に監禁されていた。

つぼみ達は4人一緒に背中合わせにされ、グルグル巻きに縛られている。

えりか

「まさか畏だつたなんて・・・」

いつき

「卑怯だよ・・・」

ガモースラ

「何とでも言え。オレ達はデューン様の仇を討つためなら何だってするのさ。」

ゆり

「私達をどうするつもり・・・?」

アヌビーナス

「とりあえずあなた達を心の大樹に連れて行く。」

つぼみ

「美羽・・・ももかさ・・・」

美羽達が廃倉庫に着くと、そこには誰もいなかった。

美羽

「皆さんがいない・・・」

ももか

「一体どこに・・・」

ふたば

「あそこ！手紙がある。」

美羽は手紙を読んだ。

『プリキュア達を助けたくば、心の大樹まで来い』

美羽

「皆さん、今助けに行きます！！」

心の大樹

美羽

「皆さん！！」

ガモースラ

「おお、来たか。早かったな。」

ももか

「つばみちゃん達はどこ？」

アヌビーナス

「あそこよ。」

アヌビーナスは大樹を指差した。

つばみ達は大樹に縛りつけられている。

美羽

「今助けます！プリキュア・・・」

アヌビーナス

「させないわ。」

アヌビーナスは両手から包帯を放ち、美羽とももかを絡め取った。

シュルルルッ！！

美羽・ももか

「キャアッ！！」

ふたば

「美羽お姉ちゃん！ももお姉ちゃん！」

ガモースラ

「終わりだな。」

ふたば

「あなた達の心は、荒んでいるのね・・・その枯れた花、私の心で癒してみせる!!」

その時、ふたばの手が光りココロパフュームが現れた。

美羽

「ふたばちゃん、それを!!」

ふたば

「プリキュア・オープンマイハート!!」

ふたばは緑色の光に包まれ、緑色の戦士に変身した。

イリス

「大地を癒す一輪の花!キュアイーリス!!」

えりか

「キュアイーリス・・・」

つぼみ

「ふたばが、プリキュア・・・」

イリス

「プリキュア・エナジーソーサー!!」

イリスは緑色の円盤を投げ、つぼみ達を縛る縄と美羽達を縛る縄を叩き斬った。

ズバッ!!

ブロッサム

「大地に咲く一輪の花！キュアブロッサム！！」

マリリン

「海風に揺れる一輪の花！キュアマリン！！」

サンシャイン

「日の光浴びる一輪の花！キュアサンシャイン！！」

ムーンライト

「月光に冴える一輪の花！キュアムーンライト！！」

シャドームーン

「闇夜を照らす一輪の花！キュアシャドームーン！！」

スカーレット

「情熱燃やす一輪の花！キュアスカーレット！！」

ブロッサム・マリリン・サンシャイン・ムーンライト・シャドームーン・スカーレット・イーリス

「ハートキャッチ・プリキュア！！」

ガモースラ

「チッ、全員揃っちゃったか。」

アヌビナス

「こうなったら、奥の手を使いましょう。」

ガモースラとアヌビナスは合体し、巨大な蛾のような姿になった。

アヌビガーマス

『競合合体・アヌビガーマス・・・プリキュア、覚悟しろ・・・』

ゴゴゴゴゴ・・・

ブロッサム

「ハートキャッチミラーージュを使いましょう！全員で。」

ブロッサム・マリン・サンシャイン・ムーンライト・シャドームーン・スカーレット・イーリス

「鏡よ鏡、プリキュアに力を！ハートキャッチプリキュア、スーパーシルエツト！！！」

アヌビガーマス

『ギャオオオオオン！！』

ブロッサム・マリン・サンシャイン・ムーンライト・シャドームーン・スカーレット・イーリス

「花よ、咲き誇れ！！プリキュア・ハートキャッチレインボーオーケストラ！！！」

ムーンライト・シャドームーン

「フツ！！」

ズオツ！！

サンシャイン

「えいつ！！」

ブワツ！！

マリン・スカーレット  
「ハアッ!!」

ゴオッ!!

ブロッサム・イーリス  
「やあーっ!!」

ズン!!!

アヌビガームス  
『グ・・・ガ・・・』

アヌビガームスはガモースラとアヌビーナスに戻る。

ガモースラ

「この光・・・」

アヌビーナス

「何て優しいのかしら・・・」

ガモースラとアヌビーナスは穏やかな表情になり、浄化されていた。

パアアアア・・・

太古の砂漠の使徒であるガモースラとアヌビーナスは、ブロッサム

達の力により浄化された。

ハートキャッチプリキュアの戦いは、まだ終わらない！！

終わり



## 後編：奇跡の戦士、キュアイーリス！！（後書き）

### キャラクター紹介

花咲つばみ／キュアブロッサム：この話の主人公であり、ツインテールの女の子。植物学者になる事を夢見ている。大地の戦士でパーソナルカラーはピンク色。決めゼリフは「私、堪忍袋の緒が切れました！！」。

来海えりか／キュアマリン：つばみの親友であり、元気一杯な女の子。スタイリストになるのが夢。海の戦士でパーソナルカラーはブルー。決めゼリフは「海より深いアタシの心も、ここらが我慢の限界よ！！」。

明堂院いつき／キュアサンシャイン：つばみの親友であり、柔道を嗜む女の子。明堂院流の師範を務める。太陽の戦士でパーソナルカラーはイエロー。決めゼリフは「その心の闇、私の光で照らしてみせる！！」。

月影ゆり／キュアムーンライト：つばみ達の先輩であり、冷静な性格の優等生。月の戦士でパーソナルカラーはシルバー。決めゼリフは「全ての心が満ちるまで、私は戦い続ける！！」。

月影美羽／キュアシャドームーン：元々はダークプリキュアであり、月影博士に造られたゆりの妹。人間に転生してからはお淑やかな性格になった。影の戦士でパーソナルカラーはブラック。決めゼリフは「全ての闇を晴らすまで、私は果てません！！」。

来海ももか／キュアスカレット：えりかの姉で人気のアイドル。ゆりの親友でもある。炎の戦士でパーソナルカラーはレッド。決めゼリフは「冷たい心は、アタシの情熱で溶かしてあげる！！」。

花咲ふたば／キュアイーリス：つばみの妹であり、無邪気な性格の女の子。まだ幼いが正義感はかなり強い。草の戦士でパーソナルカラーはグリーン。決めゼリフは「その枯れた花、私の心で癒してみ

せる！！』。

ガモースラ：太古の砂漠の使徒であり、キュアフラワーに封印された蛾の怪人。アヌビースと共にプリキュアを襲う。

アヌビース：太古の砂漠の使徒であり、キュアフラワーに封印された犬の女怪人。ガモースラと共にプリキュアを襲う。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8037v/>

---

ハートキャッチプリキュア！短編集～新たな出会い

2011年9月5日16時21分発行